



日本福音ルーテル教会 北海道特別教区報

第44期第2号

2024年8月1日
発行者:小泉基



助けあいの物語を紡ごう

小泉 基

2000年前に編集された福音書には、イエスさまに出会っていただいたさまざまな人たちの物語が記録されています。それぞれに困難な事情を抱えていた人たちが、イエスさまとの出会いのなかで、いろいろな形でイエスさまに助けをいただき、生きる力を得ていったのです。

確かに、福音書にはイエスさまが起こされた大がかりな奇跡の物語も記録されています。数千人ものお腹をすかせた大群衆の全員が、イエスさまからパンをわけにいただいたという話。ガリラヤの湖の水の上を歩き、また風や波を叱って静かにさせたという話もあります。そしてもちろん、イエスさまご自身の十字架からの復活は、聖書に描かれている物語の中で最大の奇跡であるといえます。

けれども、福音書を読んでいて圧倒的に多いのは、病気や障がいをかかえていた人がイエスさまと出会って、その病や障がいを癒していただいたという話です。それは困りごとの中にある病者とイエスさまとの個人の出会いであり、イエスさまの大きく力強い手によって、ひとりひとりの病者が救われていくという物語です。

この秋、教区が計画している修養会のテーマは「わたしの助けあい(ディアコニア)体験」です。わたしたちは、キリスト教2000年の歴史の中で最も後ろに連なる、最も新しいイエスさまの弟子のひとりとして、このイエスさまの宣教の輪に加わっています。わたしたちの手は、小さく、弱く、大きなことをなし得るわけではありません。教会の働きも、牧師の人数が十分に満たされていたかつての時代のように活発に、というわけにはいきません。それでもわたしたちは、今もこれまでも、黙って座っているわけではないのです。イエスさまが、困難な中にあるひとりひとりの困りごとに、ひとつひとつ手を指しのべていかれたように、わたしたちも、日々この小さな手で助けあいながらあゆんでいます。そんなわたしたちの喜びをわかちあう修養会に、ともに集いましょう。



会場となる北海道クリスチャンセンター →
現在鋭意準備中！

各教会の近況報告

【函館教会】

6月28日(日)講壇交換にて約2年ぶりに小泉牧師による主日礼拝が行われました。久々の再会でしたが空白時間の存在を感じず、すぐに溶け込んで馴染みある礼拝に参加することが出来ました。その後茶話会も教会員と共に談笑され、和やかな時間を過ごしました。



(小泉牧師をお迎えして)

1週間後7月7日(日)の七夕。函館の七夕は子どもたちが各家庭を回り、歌ってろうそくをもらう風習が古くからあります。最近では笹竹を飾っている家を周り、ろうそくではなく主にお菓子をもらうのが主流です。過去に教会で短冊に願い事を書いて笹に飾ったことはありましたが、お菓子配りをしたことはありませんでした。今年は7日が日曜日。初めての試みとして急きょ企画し、お菓子と笹竹の準備や飾り作り、そして教会に関わっている皆様に“神様への願い事”を短冊に書いて頂きました。河田牧師には子ども礼拝の案内が記載されたみことばカードを用意して頂き、お菓子と一緒に袋に入れました。夕礼拝後、短冊を飾った笹竹を教会の外に出すと子どもたちが集まり“竹に短冊七夕祭り～♪”と定番の歌を元気よく歌ってくれ、そしてお菓子とカードを78人の子どもたちに渡しました。河田牧師にとって函館の七夕は初め

てであり、説明はしましたが想像がつきにくいようでしたが、始まると“みんな歌をちゃんと歌って、スゴイですね。”と感心されこの独特の風習を理解されました。来年7日は月曜日ですが、河田牧師がやる気があるようなので、たぶん決行となるでしょう。

そして7月21日(日)からは毎年恒例の“種蒔き”、市内の高校生を迎えての礼拝が始まり、今年は“礼拝って何だろう礼拝”と題して約4週間行われます。小学生以下の子どもたちや高校生、この若い世代が神様と出会うきっかけとなればと切に祈っています。そして9月にはバザー開催を予定していますが、この時も多くの方々に神様と出会うきっかけになればと祈ると同時に、地域に密着した宣教活動が時間を要しても実になることを信じています。そして改めて神様が函館教会に与えた役割の大きさと、それが一人一人の信仰を深めて函館教会が祝福に満ち溢れた場に成長させる恵みであることを感じます。感謝です。

余談ですが、教会員の協力にて函館教会に今年クーラーを設置致しました。ここ数年の夏は酷暑で扇風機フル活動しても暑くて大変でしたが、快適に環境を整えることが出来ました。感謝です。

(岩崎明子)



(七夕かざり)

【札幌教会】

5月12日(日)、札幌礼拝堂では母の日ファミリー礼拝が行われました。コロナ下では子どもたちと大人とが別々に礼拝するほかなかったのですが、ようやく一緒に礼拝を守ることが出来るようになり、90名近い参加者で礼拝堂がいっぱいになりました。「あくたれラルフ」という、あくたれネコの絵本を通して放蕩息子の物語を学び、礼拝後に保護者さんたちは、園舎で開催された子ども絵画展を鑑賞しました。参加者にはめばえ幼稚園の竹原園長のイラストによるオリジナル自由帳がプレゼントされました。

5月18日(土)、カトリック北一条教会で世界祈祷日札幌集会が行われ、札幌教会からも18人が参加しました。聖公会の笹森田鶴主教から力強いメッセージをいただき、パレスチナの平和を願って各教派から集った多くの参加者が祈りをあわせました。懇親会の席上、一部の教職の間で、この祈りを行動に移すことができないだろうか話しあいなされ、後日、パレスチナ問題の要請書をまとめて、カトリックや日本キリスト教団など7教派の代表者の連名でイスラエル、米国、日本各国政府に送付しました。



(世界祈祷日礼拝)

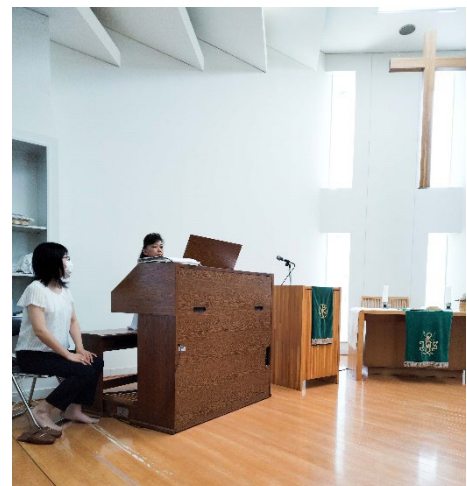


(絵画展)

6月22日(土)、新札幌礼拝堂のオルガンの入れ替えがありました。これまでの電子オルガンは、いつも調子が悪く、異音や電源落ちに悩まされてきましたが、近藤雅子さんのご自宅のオルガン入れ替えを機に、これまでのオルガンを譲り受けることが出来ました。翌23日(日)には近藤さんによるミニコンサートも行われ、安心して礼拝できる環境が整えられ感謝でした。



(オルガン搬入とコンサート)



その翌週、29日(土)・30日(日)には、教区の講壇交換で、札幌北礼拝堂と札幌礼拝堂に、恵み野・函館教会から河田礼生牧師をお迎えしました。いずれの礼拝堂においても、礼拝後に懇親会が行われ、北海道において下さったばかりの河田牧師と交わりのひとときを過ごしました。

毎月第4水曜日、札幌北礼拝堂で平和を学ぶ会が行われています。6月には小泉章夫さんが憲法改正問題について発題をして下さいました。憲法改正や武器輸出、自衛隊の基地拡張などについて自由に意見交換し、会が終わってから首相と防衛大臣へのお手紙を作成して送付しました。7月には高原正明さんの発題で「脱原発の視点で聖書を読む」の読書会が行われました。

札幌北礼拝堂では、今年の3月から毎月第3土曜日の主日礼拝後に、日本キリスト教史の学びを行っています。ザビエルの鹿児島上陸にはじまるキリシタンの歴史から学び始め、現在は秀吉から家康にいたる時期の宗教政策へと学びをすすめています。

7月28日(日)、札幌礼拝堂において今年

も「夜の教会学校」が行われました。いつもは日曜日の朝に集まって礼拝している子どもたちが、この日は夕方5時に集まって礼拝を守り、そのあと園庭で、教会の人たちが準備した夜店まわりを楽しみました。今年の新機軸は、教会学校の子どもたち自身によるお店が出店されたことです。2週間かけてペン立てにも出来る紙コップのデコレーションに取り組み、当日はローテーションで販売係も担当しました。その他に園庭に並んだのは、カードショップ、かき氷、おもちゃくじ、バイクドマシユマロ、ヨーヨー釣り、おかしくじ、きゅうり&ソーセージの7店舗。子どもたちは思い思いにお店を回り、最後はみんなで花火を鑑賞して夏の夜のひとときを楽しみました。

新札幌礼拝堂では8月6日(火)に昨年数カ月礼拝を共にしたステファン・ライリーさんを囲んでの親睦会を行います。9月からは九州ルーテル学院でのお働きが始まり、熊本地区の教会でもご奉仕される予定です。慣れない土地での生活とお働きの上に主のお守りと祝福があるようにお祈りください。

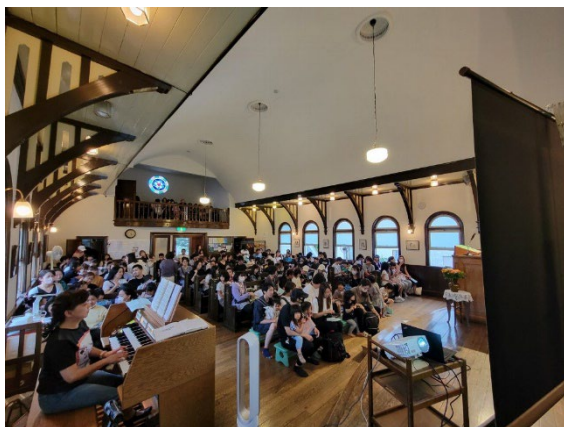
(小泉基・岡田薫)



(夜の教会学校の準備をすることどもたち)



(夜の教会学校)



【帯広教会】

5月4日(土)礼拝後、檜戸健次郎医師よりネパールでの支援活動をお聞きしました。ネパールの国の写真を見ながら始まり、最後にどんな質問でもどうぞとQ&Aタイム。「元気に年を取る秘訣は」の問いに「引退後も人の為に働くことだよ」の言葉が心に残りました。お話を聞き、ネパールの事を知りたいと11月にスタデーツアーに参加される方がいます。ネパールの人びとを覚え、支援活動が祝福されますようにお祈りいたします。

6月30日(日)、19年ぶりに釧路の山花リフレにて釧路、浦幌、帯広から17名(内4名は友達、家族)が参加し野外(室内で)礼拝を行いました。共に礼拝し、歓談しながら美味しい食事と温泉に入りソフトクリームも食べ、心も身体もおなかも満たされました。



(6/30お弁当)

7月に入り、さっそく有志で気になっていた教会の庭の手入れ、牧師館の周りの草刈りや草取りをしました。3日(水)の聖書通読会の帰りにドアを開けると玄関前のベンチにご近所の方がお二人腰かけて涼みながらお



話されていました。とても嬉しかったです。21日(日)は昨年に引き続き、教会駐車場を町内会夏祭り会場としてお貸ししました。この日は朝から気温が上がり最高気温34℃、牧師は朝早起きし8時前から町内会役員と会場設置の準備です。参加者にはトイレも使用してもらい教会の中に気軽に入ってもらいました。おじちゃんおばちゃん、若いご夫婦、こどもたちの約50名。地域の方との交流、牧師と合わせて3名が参加し楽しい一日となり感謝です。

9月28日(土)には帯広教会有志で「月寒あんぱん」を支援品としてお送りしている「ちかちゅう給食活動」(渋谷のホームレス支援)の久保さん、片岡さんがボランティアの皆さんと来帯されます。活動のお話をお聞きする特別礼拝として鋭意準備中です。10月の教区修養会も参加を早目に呼びかけています。交流が深められ恵み豊かな時となりますように。

(大金よし子)



(町内会夏祭り会場となった教会駐車場)

(← 釧路野外礼拝集合写真)

【恵み野教会】

この春から夏にかけて、花のまちに建つ恵み野教会らしい時が与えられました。例えば4月27日(土)の礼拝後には、教会の近くの恵み野中央公園へお花見に行き、園内を散策しながら、お花を楽しみました。桜を見に行ったはずなのに、集合写真はモクレンの前でした。それもまた恵み野教会らしさかもしれません。公園を散策した後には、佐藤光子さんのお庭を訪ねて、そこでもお花を楽しみました。教会のお花のほとんどは佐藤さんが持ってきてくださり、多い時には聖壇に加えて、さらに2-3個の花器いっぱいにお花が生けられ、教会が華やかに彩られています。また6月8日(土)には花の日礼拝として主日が守られ、教会の多くの方がお花を持ち寄ってくださいました。たくさんのお花が飾られ、恵み深い礼拝でした。またお花は翌日に函館教会へと届けられ、恵みの分かち合いもされました。

教会が華やかだと心もリフレッシュされます。教会のみんなで、宣教にも前向きに取り組むことができます。教会の皆様の献金によって新たにパソコンが購入され、IT環境も整ってきました。またインスタグラムを開設し、教会の宣教

の幅が広がりました。地域や若者に向けて、恵み野教会を知っていただけるように活用していきます。

地域に向けてはバザーの準備も始めております。コロナ禍以前の2019年から開催できていなかったバザーですが、6月に信徒会をした時には様々な思いが語られ、新しい提案もなされ、みんなで意欲的に向き合っています。バザーは9月23日(月・祝)に開催予定ですので、教区の皆様もどうぞご来場ください。献品もお待ちしております。詳しくは各教会に案内をお送りします。

最後に礼拝に関してです。6月29日(土)、30(日)に講壇交換があり小泉牧師を迎えての恵みの時が与えられました。礼拝後にはうどん・そば食堂が開かれ、大いに盛り上がったと聞いています。また、7月20日(土)－8月10日(土)には特別礼拝として「礼拝ってなんだろう礼拝」が行われています。礼拝を学びつつ、その恵み深さを再発見する豊かな主日です。今後も主の恵みに押し出され、キリストのからだとしての教会の歩みを北海道教区の全教会と共に続けていきたいと願います。(河田礼生)



(モクレンの下で記念撮影)



(花の日礼拝の準備)

第26回女性会連盟 総・大会

「イエスのまなざしと出会う…～神さまに、隣人に、そして社会に仕える～」
2024年6月7日(金)－8日(日)@日本福音ルーテル教会宣教百年記念東京会堂
北海道から参加された方々よりレポートを頂きました

女性会連盟総会に出席して

札幌礼拝堂婦人会会長 佐藤順子

6月7日(金)-8日(土)、東京教会にて第26回女性会連盟総会が開催され、札幌礼拝堂から近藤雅子さん、安藤恵さんと私の3人が出席いたしました。

全国から200名近くの会員が一堂に会し、ネットを通じて見ていた礼拝堂正面の4面のステンドグラスの存在感にも圧倒されました。作者はドイツの高名なマイスターとのこと。私たち夫婦は、コロナ前は毎年ドイツと周辺国を数週間旅行するのが恒例となっていました。大聖堂から小さな村の教会まで沢山訪れ、それぞれの歴史とともにあるステンドグラスを見上げて聖なる空間へ導かれるような安らぎを覚え、その場を立ち去りがたい思いを経験したことを思い出しました。

さて総会1日目は平良愛香牧師による講演「LGBTが安心していられる場所は」、教区報告、そして終了後美味しいお料理をいただきながら和やかに愛餐会。

2日目は活発な意見交換が行われ、時には厳しい質疑応答が交されました。北海道については教区として成立していないにもかかわらず、活動の様子が会報の冒頭に掲載されているのは疑問だとの指摘もありましたが、今回も位置づけは定まりませんでした。サバ神学生への支援は終了するが交流は続けること、国内の牧師の支援を早急に行う必要があること、女性会の休会が相次ぐ現状、男性にも呼びかけ信徒会にしては？等々様々な意見が出され、多様性が求められる時代を反映した大会となった印象を受けました。



(講師の平良愛香牧師)



(会場の日本福音ルーテル教会宣教百年記念東京会堂/東京教会)

女性会連盟総会に初めて参加しました

函館教会野の花の会 竹花裕子

函館教会から、若手5人組で初参加。出発前の段階からてんやわんやです。飛行機のチケット取りに「年齢、あ、メールアドレスも要るんだって。」「ホテルの宿泊予約は『事前決済』が200円安いよ。」とか、「速やかに移動したいので、荷物は機内持ち込みにして下さいね。」「ダメで一す。預けたいです。」などなど。今思えば笑っちゃうけど初めてのメンバーで初めての移動でもあり、それぞれ緊張していました。

東京教会の大会場での開会礼拝は、総勢300余名の荘厳な讃美歌に包まれ、こんなにたくさんの仲間と共に与る幸せに感謝でした。講演は日本キリスト教団牧師平良愛香氏。柔らかい語り口で「LGBTが安心していられる場所は、全ての人が安心していられる場所」とご自身の経験から、この世界に必要な事や愛に包まれたご家族のお話をして下さいました。中でも彼がカミングアウトした後にお母様が「わたしの自慢の息子はゲイです」というTシャツを作って着ていたという話には涙してしまいました。



(Tシャツを掲げる平良愛香牧師)

総会は、信仰の先輩方の積極的な発言に圧倒されっぱなしでしたが、頼もしいお手本に若いメンバーが「もっとちゃんと連盟会報を読まなくちゃね。」と言ってくれたので函館教会も安泰だわぁと思いました。函館も昨年から壮年会と共に会を進める事になりましたが、各地で女性会の閉会が増えていると報告されていました。時代の流れもあるでしょうが、慎重にこの先の事を考えて行かねばならない時だと感じました。

全国各地の大先輩方に、たくさんの信仰の支えと刺激を頂いて来ました。また、函館に関わって下さった牧師のお母様方との交わりも楽しかったです。夜には札幌と函館で懇親会を持てた事も特別な交わりとしての思い出です(残念ながら私は参加できませんでしたが)。次の総会へは、また違うメンバーにしっかりとバトンを渡していかなばと神様から背中を押されたような恵み多い会でした。感謝。



(野の花の会参加メンバー)

教勢動向 (2024年5月-7月)

札幌教会 召天: 小川照美さん(5/7) 浜出健治さん(5/13)